



新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ

ヴェルディ

シモン・ボッカネグラ

Simon Boccanegra

<新制作>

2023年11月15日(水)～11月26日(日)

会場:新国立劇場 オペラパレス 2023年9月9日(土) 10:00～前売開始

主催:公益財団法人新国立劇場運営財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

制作:新国立劇場

委託:令和5年度日本博 2.0 事業(委託型)



海洋国家ジェノヴァに渦巻く恩讐と愛 ヴェルディの重厚な傑作を新国立劇場初演

ヴェルディ円熟の傑作『シモン・ボッカネグラ』が新国立劇場初登場！ジェノヴァ総督となる海の男シモン・ボッカネグラを題材に、平民と貴族の抗争、親子や恋人の愛とすれ違いとが入り組み、憎悪から和解へと至るドラマが力強い音楽で展開します。オペラファンならば必ず見ておきたい、ヴェルディならではの重厚な傑作です。

現代オペラ界最前線のピエール・オーディ演出。美術は現代アートのアニッシュ・カプーア！

演出はエクサン・プロヴァンス音楽祭総監督で、その革新精神でオペラ界をリードする演出家ピエール・オーディ。インパクトの大きな大規模彫刻やパブリック・アートで世界を席卷するアーティスト、アニッシュ・カプーアとのコラボレーションが早くも話題です。シモンの苦悩、人間への洞察がクローズアップされる美的で壮大な世界に期待が集まります。

世界のオペラファン必聴必見のキャストが大野和士のもとに集結

難役シモンには名ヴェルディ・バリトンのロベルト・フロンターリが堂々の登場。アメリアにはスター・ソプラノのイリーナ・ルング、シモンの宿敵フィエスコにはスカラ座などで活躍中のリッカルド・ザネッラートと、大野和士芸術監督の信頼厚いトップ歌手陣が集結。アメリアの恋人ガブリエーレには輝かしい声を誇るルチアーノ・ガンチが待望の登場。シモンを裏切るパオロには性格表現も巧みなバリトンのスター、シモーネ・アルベルギーニ。世界のオペラファン必聴必見の豪華歌手陣がこの秋の東京・新国立劇場に勢揃いします。

<資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

海洋国家ジェノヴァに渦巻く恩讐と愛 相克と赦しの物語

ヴェルディ中期にあたる43歳で作曲し、24年後の大幅改訂で一躍成功を収めた『シモン・ボッカネグラ』の新国立劇場初演です。14世紀に実在した初代ジェノヴァ総督シモン・ボッカネグラを題材とし、平民と貴族の抗争に、親子や恋人の愛とすれ違いが入り組むドラマが力強い音楽で一気に展開します。フィエスコの沈痛なアリア「引き裂かれた父の心は」、アメリアのロマンツァ「暁に星と海はほほえみ」、シモンとアメリアの二重唱、ガブリエーレのアリア「わが心に炎が燃える」、シモンのモノローグ「慰めてくれ、海のそよ風よ」、そして緊迫した重唱や多彩な合唱と聴きどころも満載です。元海賊で名総督となるシモン（バリトン）、貴族階級で厳格な性格の宿敵フィエスコ（バス）をはじめ、ヴェルディならではの男声低音キャラクターの魅力が凝縮され、上演には盤石の歌手陣を必要とする作品でもあります。

現代屈指のオペラ演出家ピエール・オーディ×アニッシュ・カプーアのコラボレーション

演出にあたるのは、長年オランダ国立オペラを率いて同歌劇場を変革し、18年からは最も刺激的な音楽祭エクサン・プロヴァンス音楽祭の総監督を務める、現代オペラ界屈指の演出家ピエール・オーディ。オーディが「人間の精神に迫る力強い彫刻」と絶大な信頼を寄せる現代アート界のスター、アニッシュ・カプーアとのコラボレーションです。オーディ演出×カプーア舞台美術のタッグは映像化もされている『パルジファル』、『ペレアスとメリザンド』に続くもの。人物の精神を象徴し、観客の想像力を大いに刺激する極めて美的な舞台に期待が集まります。『シモン・ボッカネグラ』で描かれるシモンの苦悩と解放、権力のはかなさ、感情や家族の絆のもろさに着目しているというオーディと、ヘルダーリンが描いた、エトナ山で人間の存在と死に思いを巡らせたエンペドクレスの姿をシモンに重ね、自然や人体への洞察を込めたというカプーアが生み出す、壮大で力強い世界にご期待ください。

本プロダクションはフィンランド国立歌劇場及びテアトロ・レアルとの共同制作で、新国立劇場での世界初演後にヘルシンキ、マドリッドでの上演が予定されています。



『リゴレット』(2023年5月)より

新制作にふさわしい豪華キャストが東京に集結

指揮はイタリア・オペラへも情熱を注ぐ大野和士自らが当たります。シモンにはヴェルディ・バリトンとして世界を飛び回り、本年5月『リゴレット』で張りのある華やかな声と完璧な声楽テクニック、そして繊細にして段違いのスケールの表現でオペラパレスを熱狂させたロベルト・フロンターリが再び登場。宿敵フィエスコにはミラノ・スカラ座をはじめ著名劇場でバスの諸役を務め、新国立劇場ではくオペラ夏の祭典『トゥーランドット』ティムールで感動を誘ったリッカルド・ザネッラート、シモンを裏切るパオロに22年新国立劇場でのドン・ジョヴァンニ役のしなやかな表現で劇場中を魅了した実力派シモーネ・アルベルギーニと重厚な布陣。アメリアにスター・ソプラノとして日本でもファンの多いイリーナ・ルング、そして恋人ガブリエーレには輝かしい声が持ち味のルチアーノ・ガンチが待望の登場を果たします。



大野和士芸術監督からのメッセージ

2023/2024シーズンの新制作としまして、現在エクサン・プロヴァンス音楽祭の総監督である演出家ピエール・オーディを迎え、ヴェルディの最後期の作品が生み出される先駆けとなった『シモン・ボッカネグラ』の新国立劇場初演を行います。主役のシモン・ボッカネグラにはロベルト・フロンターリ、娘アメリアにはイリーナ・ルング、フィエスコには名バスのリッカルド・ザネッラート、アメリアの恋人役のガブリエーレにはルチアーノ・ガンチほか、世界の第一線の歌手が揃い、貴族社会と平民社会、それとボッカネグラとアメリア間の親子の確執が、胸をえぐるような深い劇的な波となって皆さんの心に刻まれることでしょう。

<「シモン・ボッカネグラ」あらすじ>

14世紀の海洋国家ジェノヴァでは総督を巡り貴族と平民が激しく対立。元海賊のシモンは貴族のフィエスコの娘と恋仲になり娘をもうけるが、離別させられる。25年後、総督になったシモンは死んだと思っていた娘アメリアとの再会を果たす。シモンに対立する貴族ガブリエーレを愛するアメリアは、彼との愛を告白。シモンの腹心パオロも彼女との結婚を望むがシモンに拒まれ、野心に燃える彼はシモンに遅効性の毒を注ぐ。パオロの仕掛けた毒が回ったシモンはアメリアの恋人のガブリエーレを新総督に推し息絶える。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】大野和士

ONO Kazushi

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、ベルギー王立モネ劇場音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演を重ね、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のプロダクションを指揮。新作初演にも意欲的で、数多くの世界初演を成功に導いている。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス」を獲得し、フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。新国立劇場では1998年『魔笛』、2010～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』『Super Angels スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、22年『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』、23年『ラ・ボエーム』を指揮している。23/24シーズンは『シモン・ボッカネグラ』『トリスタンとイゾルデ』を指揮する予定。



【演出】ピエール・オーディ

Pierre AUDI

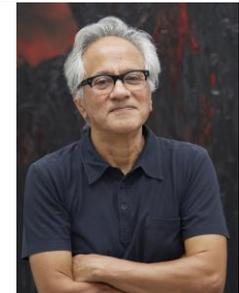
レバノン出身。オックスフォード大学で学ぶ。1979年ロンドンでアルメイダ劇場と同劇場現代音楽フェスティバルを設立、89年まで監督を務める。88年から2018年までオランダ国立オペラ芸術監督。在任中の16年に同劇場がインターナショナル・オペラ・アワード最優秀オペラカンパニーに輝く。04年～14年、オランダフェスティバル芸術監督。18年からエクサン・プロヴァンス音楽祭芸術監督、ニューヨーク・パークアヴェニュー・アーモリー芸術監督。演出家としては、カレル・アペル、ゲオルグ・パゼリッツ、アニッシュ・カプーア、ヘルツォーク&ド・ムーロンらの現代美術家と協働し、大評判を博したモンテヴェルディシリーズやオランダ初の『ニーベルングの指環』チクルスなど、バロックからモーツァルト、ワーグナー、ヴェルディ、メシアンまで幅広い作品を演出。現代作品の演出は特に多く、キャリア初期以来、約40の世界初演作を演出している。世界の主要劇場に演出に招かれ、最近では16年メトロポリタン歌劇場『ウィリアム・テル』、18年ミラノ・スカラ座『Fin de Partie (エンドゲーム)』世界初演、オランダ国立オペラ『光から』、22年オランダ国立オペラ『エウリディーチェ——Die Liebenden Blind』、フィレンツェ歌劇場『オルフェオとエウリディーチェ』などを演出。レスリー・ブージー賞、ドロットニングホルム黄金勲章、オランダ批評家賞、アムステルダム文化ビジネス賞、フェルメール賞など受賞多数。オランダ獅子勲章、レジオン・ドヌール勲章、アムステルダム市銀メダル受章。オランダ国立オペラ退任時に芸術科学黄金勲章を授与される。22年には芸術文化勲章オフィシエを授与された。新国立劇場初登場。



【美術】アニッシュ・カプーア

Anish KAPOOR

ムンバイ生まれ。現代をリードする国際的アーティスト。1990年第44回ヴェネツィア・ビエンナーレに英国代表として参加しデュエミラ賞を受賞、翌1991年ターナー賞を受賞。世界中で個展が開催され、多くの作品が国際的コレクションや美術館に収蔵されている。建築と彫刻の境界を曖昧にする美術作品で一層知られるようになり、多くのパブリック・アートがその地を象徴するランドマークとなっている。近年では、ヴェネツィアのアカデミア美術館及びパラッツォ・マンフリン（2022年）、オックスフォード現代美術館（2021年）、ミュンヘン・ノイエ・ピナコテーク（2020年）、北京・中央美術学院及び紫禁城（2019年）、プエノスアイレス・フンダシオン・プロア（2019年）、ポルトのセラルヴェス美術館（2018年）、メキシコシティ・メキシコ国立大学現代美術館（2016年）、ヴェルサイユ宮殿（2015年）、モスクワ・ユダヤ博物館トレランスセンター（2015年）、ベルリン・グロピウス・バウ（2013年）、イスタンブール・サークプ・サバンジュ美術館（2013年）、シドニー現代美術館（2012年）などで個展が開催されている。



【シモン・ボッカネグラ】ロベルト・フロンターリ（バリトン）

Roberto FRONTALI

世界で最も重要なバリトン歌手のひとり。キャリア初期はベルカント、その後ヴェルディ、最近ではブッチェーニやヴェリズモをレパートリーとする。1990年代初頭にメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座へデビュー。特に重要な出演に、アバド指揮『セビリアの理髪師』、ミラノ・スカラ座で10年に渡り共演したムーティ指揮『椿姫』『ファルスタッフ』『ドン・パスクワレ』、メータ指揮『運命の力』『ルチア』『ファルスタッフ』、ザクセン州立歌劇場『ドン・カルロ』、フェニーチェ歌劇場『リゴレット』などがある。最近の特筆すべき出演に、ウィーン国立歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』ミシヨネ、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル『リゴレット』、ロサンゼルス・オペラ、ローザンヌ歌劇場『ファルスタッフ』、サンフランシスコ・オペラ『西部の娘』ジャック・ランス、ローマ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、サンフランシスコ・オペラ、フェニーチェ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場『オテロ』イアーゴ、メトロポリタン歌劇場『シラノ・ベルジュラック』ド・ギッシュ伯爵、パリ・オペラ座『マクベス』タイトルロール、フィレンツェ歌劇場『ペレアスとメリザンド』ゴローなどがある。新国立劇場では98年『セビリアの理髪師』フィガロ、2002年『ルチア』エンリーコ、15年『トスカ』スカルピア、23年5、6月『リゴレット』へも出演している。



【アメリカ(マリア・ボッカネグラ)】イリーナ・ルング (ソプラノ)

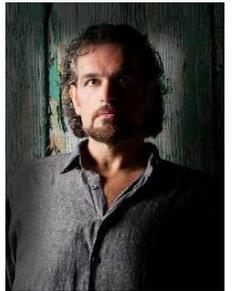
Irina LUNGU

ロシア出身。ミラノ・スカラ座アカデミー在籍中にリッカルド・ムーティによりミラノ・スカラ座 2003/04 シーズンオープニング『モイーズとファラオン』アナイ役に抜擢され、同劇場で『愛の妙薬』アディーナ、『マリア・ストウアルダ』タイトルロールなどに出演。ミラノ・スカラ座の『椿姫』ヴィオレッタは 07 年にデビュー後、08 年、13 年にも出演している。瞬間に世界のオペラ界の主要アーティストとなり、パルマ王立歌劇場、ローマ歌劇場、ヴェローナ音楽祭、トリノ王立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、フェニーチェ歌劇場などに、『椿姫』ヴィオレッタ、『愛の妙薬』アディーナ、『リゴレット』ジルダ、『カルメン』ミカエラ、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどで出演。最近ではパリ・オペラ座『リゴレット』ジルダ、ギリシャ国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ『ファウスト』マルグリート、チューリヒ歌劇場、フィレンツェ歌劇場『ファルスタッフ』アリーチェ、ミラノ・スカラ座『ラ・ボエーム』ムゼッタノミミ、ベルリン種立歌劇場『椿姫』ヴィオレッタなどに出演している。新国立劇場では 17 年『椿姫』ヴィオレッタ、21 年『ルチア』タイトルロールに出演した。

**【ヤコポ・フィエスコ】リッカルド・ザネラート (バス)**

Riccardo ZANELLATO

イタリア生まれ。重要なバスの役で常に名前が上がる歌手の一人。リッカルド・ムーティによりローマ歌劇場に定期的に招かれているほか、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、ヴェローナ野外歌劇場、パレルモ・マッシモ歌劇場、パルマ・ヴェルディ音楽祭、バレンシア歌劇場、リセウ大劇場、ネザーランド・オペラ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、サン・カルロ歌劇場、チューリヒ歌劇場、フランダース・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演、『モイーズとファラオン』モーゼ、『ナブッコ』ザッカーリア、『シモン・ボッカネグラ』ヤコポ・フィエスコ、『アッティラ』タイトルロール、『アイダ』ランフィス、『マクベス』バンクォー、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『アンナ・ボレーナ』エンリーコ、『ラ・ボエーム』コッリーネなどをレパートリーとしている。コンサートでも活躍し、特にヴェルディ『レクイエム』では世界各地に出演、多くの著名な指揮者と共演している。新国立劇場では 2019 年オペラ夏の祭典『トウランドット』ティムールに出演した。

**【ガブリエーレ・アドルノ】ルチアーノ・ガンチ (テノール)**

Luciano GANCI

ローマ生まれ。2001 年ドミンゴの「オペラリア」コンクール入賞、同年『ジャンニ・スキッキ』でデビュー。『蝶々夫人』ピンカートン、『ラ・ボエーム』ロドルフォといったブッチーニの諸役や、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなどを歌い、12 年にザルツブルク州立劇場『椿姫』で国際的にデビュー。広く輝かしい声で活躍し、ミラノ・スカラ座、サン・カルロ歌劇場、ヴェローナ野外歌劇場、ポローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、フィレンツェ歌劇場、ヴェルディ音楽祭、ブッチーニ音楽祭、ウィーン国立歌劇場、リセウ大劇場、パリー・ペトルツツェリ劇場、マリンスキー劇場、ポリショイ劇場などで、『椿姫』アルフレード、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『アイダ』ラダメス、『蝶々夫人』ピンカートン、『ルチア』エドガルド、『カルメン』ドン・ホセなどに出演している。最近ではローマ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ、『アイダ』ラダメス、『道化師』カニオ、『蝶々夫人』ピンカートン、ウィーン国立歌劇場『アンドレア・シェニエ』タイトルロール、バイエルン州立歌劇場『アイダ』ラダメス、ワロン歌劇場『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオ、ブッチーニ・フェスティバル『蝶々夫人』ピンカートン、ヴェローナ野外音楽祭『アイダ』ラダメスなどに出演。新国立劇場初登場。

**【パオロ・アルビアーニ】シモーネ・アルベルギーニ (バス・バリトン)**

Simone ALBERGHINI

ポローニャ生まれ。1993 年トリノ王立歌劇場でデビュー後、イタリア内外の主要歌劇場に出演。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに『オテロ』『タンクレディ』『泥棒かささぎ』『ギョーム・テル』など数多く出演。『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フィガロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールのほか、『チエネレントラ』ダンディーニ、『ホフマン物語』悪役、『カルメン』エスカミーリヨなど、モーツァルト、ロッシーニをはじめイタリア及びフランス・オペラをレパートリーに、グラインドボーン音楽祭、ローマ歌劇場、マチェラータ音楽祭、サン・カルロ歌劇場、ワシントン・オペラなどに出演を重ねる。これまでにウィーン国立歌劇場、ポローニャ歌劇場、リセウ大劇場、トリノ王立歌劇場、チューリヒ歌劇場などで『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フェニーチェ歌劇場、ポローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリヨなどに出演している。最近ではポローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』パオロ、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、サン・カルロ歌劇場『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ポローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、フェニーチェ歌劇場『アルジェのイタリア女』ムスタファ、『椿姫』ジェルモンなどに出演している。新国立劇場では 2022 年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールに出演した。



新国立劇場 2023/2024 シーズン オペラ
 ジュゼッペ・ヴェルディ シモン・ボッカネグラ
 プロローグ付き全3幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>
 Simon Boccanegra / Giuseppe Verdi

【公演日程】2023年11月15日(水)19:00/18日(土)14:00/21日(火)14:00/23日(木・祝)14:00/26日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:29,700円・A:24,200円・B:17,600円・C:11,000円・D:7,700円・Z:1,650円

【前売り開始】2023年9月9日(土)10:00～

※予定上演時間 約2時間45分(休憩含む)

指揮	大野和士	シモン・ボッカネグラ	ロベルト・フロンターリ
Conductor	ONO Kazushi	Simon Boccanegra	Roberto FRONTALI
演出	ピエール・オーディ	アメリア(マリア・ボッカネグラ)	イリーナ・ルング
Production	Pierre AUDI	Amelia (Maria Boccanegra)	Irina LUNGU
美術	アニッシュ・カプーア	ヤコポ・フィエスコ	リカルド・ザネッラート
Set Design	Anish KAPOOR	Jacopo Fiesco	Riccardo ZANELLATO
衣裳	ヴォイチェフ・ジエジツ	ガブリエーレ・アドルノ	ルチアーノ・ガンチ
Costume Design	Wojciech DZIEDZIC	Gabriele Adorno	Luciano GANCI
照明	ジャン・カルマン	パオロ・アルビアーニ	シモーネ・アルベルギーニ
Lighting Design	Jean KALMAN	Paolo Albiani	Simone ALBERGHINI
舞台監督	高橋尚史	ピエトロ	須藤慎吾
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Pietro	SUDO Shingo
		隊長	村上敏明
		Un capitano dei balestrieri	MURAKAMI Toshiaki
		侍女	鈴木涼子
		Un'ancella di Amelia	SUZUKI Ryoko

合唱指揮	富平恭平
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督 大野和士
 Artistic Director ONO Kazushi

共同制作 フィンランド国立歌劇場、テアトロ・レアル
 Co-production with Finnish National Opera and Ballet, Teatro Real Madrid

主催:公益財団法人新国立劇場運営財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

制作:新国立劇場

委託:令和5年度日本博 2.0 事業(委託型)



公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/simonboccanegra/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

新国立劇場 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp>
 東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より1駅、初台駅直結。

